
アメリカン

マイル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アメリカン

【Nコード】

N9676E

【作者名】

マイル

【あらすじ】

「私」がアメリカに留学している際に起きる数々のエピソード。

第一話（前書き）

他人に見せるのは初めてであまり自信がないのですが、読んで貰えたら幸いです。

第一話

一話

私は今、アメリカに留学している。そして今、爆音を聴いている。舞台の上で白人が体を振りながら激しくドラムを叩いていた、その姿はまさし狂人。

それでも見ていると力が湧いてくるのだ。そして気づけばリズムに合わせて頭を振ってしまう。

バンド名は「P e r c u s s i o n」、衝突、震動って意味であり、これはいかにドラムが狂えるかがみものである。

ライブが始まって、もうかれこれ一時間が経っているというのに男は、笑いながらドラムを叩いていた。疲れているはずなのに、ずっと笑っている。

ひと言も喋らずに笑っている姿は、恐ろしくもあるが、興奮する。

私が初めてアメリカに来た時は不安でいっぱいだった。それでも次第に取りつかれるように惚れていった、自由の国、アメリカに。アメリカに居ると日本が嫌いになる。何故って？縛られたくないんだ。

アメリカには自由があった。週末は毎週、朝まで踊り狂い、好きな物を食べただけ食べる。

自己主張が美とされる、それがアメリカなんだ。

キャンパスの中で行われた「P e r c u s s i o n」のライブは終盤にさしかかる。皆、叫んでいた。私も一緒になって叫ぶ。意味もなく甲高い声を挙げては、ゲラゲラと笑った。下品じゃない。

終わると、ざわざわと学生たちが会場から出ていく。興奮しきった私の体は収まりがごとくなく収まりがつかなかった。

出ると外は冷たく、私の火照った頬を冷やしてくれた。そっと頬を触れるとカサカサだ。わずかばかりの星空の下を私は歩いて行く。先週はテストもあったし、勉強は一杯した、だから今日はもっと騒ぎたかった。

「ヘイ、サエコ」、ジョンが私に声をかけてきた。英語のクラスでジョンとは一緒に、よく話す。いい人だし、私は彼が好きだ、友達としてだけ。

「ライブはどうだったかい？」

「うん、最高だったよ。」

「僕も好きだよ、特にあのドラムが格好良かったよね」

激しく同感である。ジョンが私と同じ考えを持っている事にうれしくなり、私は興奮気味に、ドラムの良さを彼に語る。まだ冷めない頬の熱が、再び熱くなる。

私は喋り出した。ジョンは私の話を聞いては、頷き、同意してくれる。

それだけで嬉しくなり私はどんどん話す。気づくと寮の前まで到着してしまい、あとは別れるだけ。まだ話したい。酔いもまだ冷めていないのに帰るのがもったいない。

名残り惜しみながら、別れて寮に戻ろうとする。でも別れてすぐジョンが私を呼んだ。

「ヘイ、サエコ！今から僕の部屋に来て、飲み直さないかい？」
嬉しくなり、

「イエス！行くよ！」
と、叫んだ。

ジョンの部屋に到着すると、ポスターが貼ってあった。よく分からないポスターだらけ。

決して綺麗とは言えないが、汚くもない。普通の部屋だろう。

ジョンが台所に行き、大きなウイスキーを持ってくると、私にそれを見せ、微笑む。

私はニツコリと笑い返す。

その後、私たち二人はたくさん話した、ウイスキーを水割りで飲みながら。

楽しかった事だけは分かる。沢山しゃべって沢山笑った。

時間だけが過ぎ、体中が火照ってくる。

ジョン私はベッドルームに誘い出した。

私はなんとなくついて行く。

質素なベッドルームに入ると後方部に立っていた、軽く私の肩に手を廻す。

私はなんとなくジョンの手に触れる。

私はジョンと向き合い、キスをした。

キスは濃厚で、よかった。

「オウサム」

こんなに素晴らしいキスは始めてだ。

続いてジョンは私のブラジャーのホックを外そうとした。ジョンは私の胸を揉んでいた。

どれだけの時間が経ったか分からない。

ジョンがチャックをおろした時、私は現実に戻った。

私はベッドから立ち上がる。

少し困惑したジヨンは、後ろを向きながら立ちつくす私の肩に再び手を廻す。

私は、ジヨンの手をどけた。それでも再び廻してくる。

「ごめん、ジヨン、私はやるべきではなかったわ。」

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9676e/>

アメリカン

2011年1月6日14時32分発行